

負けるもんか 再起の物語

▶▶ ②

日、同世代の大阪の芸人「中川家」を舞台袖から見ている。「センスがまるで違う」とシヨックを受ける。ほどなく舞台で「ほげ」に失敗し、見切りを付けた。

突出し、全体の三、四割を占めるようになる。山本さんは、そんな若者たちの先駆けのような生活を送っていた。

山本さんは二十七歳の誕生日を迎え、さすがにまずいと思った。「ITバブルに乗じて」、のぼり、看板など屋外広告販売会社に就

もこんなものかと思っていた。毎朝玄関に座り込み、吐いた。博多駅の土産物売り場で片っ端から名刺をもらった。

四年勤めた。飛び込み営業は、いつか自分の売りの逆転」という希望を込めた。知人に「それなら独立できるんじゃない」と言われたのは三十一歳のとき。アパートの一室で創業した。国雄さんも、息

日曜日でも仕事の電話に出ているサラリーマンの父親が、「会社の奴隷に見えた」。二十代後半までアルバイト生活だった山本啓一さん(三〇)の夢は、決して稼ぐことだった。今、福岡市で広告用看板

何をしても続かなかつた。大学も留年し、除籍処分となった。土木作業員として働いていたとき、テレビ

福岡県太宰府市で山本さんと同居していた父、国雄さん(モモ)は「三十歳までは

生日を迎え、さすがにまずいと思った。「ITバブルに乗じて」、のぼり、看板など屋外広告販売会社に就

約四百万円の資金を提供した。社名の「エンドライ

この春初めて大学の新卒が入社し、社員は六人になった。国雄さんによると、息子は創業資金を、月五万円ずつ返し続けていると

芸人卒業父の苦勞知る

のぼりの企画・販売会社を営む。マンション業者など得意先がバタバタと倒産する経済情勢下、榮とは程遠い生活が続く。だが、「社員と団結して全力疾走できる。充実している」と、言い切る。

番組で活躍していたお笑い芸人のダウンタウンに刺激を受け、福岡吉本の七期生として芸人デビューした。実際には、引退、までの二年間、「ビデオ屋とゲームセンターのバイトを掛け

も、誰も気にしない。掃除なんか適当で、榮だった。総務省によると、一九九〇年に約百万人のフリーターは、若者を中心に増え、ここ数年は約二百万人前後

思うようにやらせようと腹をくくっていた」という。甘やかしていたわけではな

朝六時に出社し、飛び込み営業に回らされた。二時間おきに携帯電話が鳴り、ノルマが未達だと目曜日に名刺を百枚集めてくるよう命じられた。

ひどい会社だった。だが会社勤めは初めて。「どこ

断念した。運転手として入



飛び込み営業で売り上げを伸ばす、元芸人の山本啓一さん

連載に対するご意見・感想をお寄せください。ファクスは092 (711) 6249。電子メールはkeizai@nishinippon.co.jp。ともに西日本新聞経済部あて。また本紙ホームページ(西日本新聞読者プラザ)でもお受けします。